



## 診療報酬改定についての勉強会を開催しました！

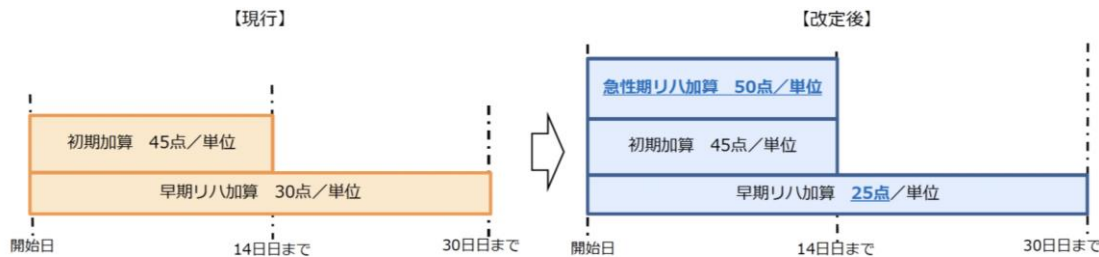
2024年は診療報酬（医療保険）と介護報酬（介護保険）が6年に1度同時に改定される年です。診療報酬、介護報酬とは医療機関等に支払われる費用を指します。リハビリテーション分野は同時改定の時に大きく変更が行われます。今回は医療部門で改定対応のための勉強会を行いましたので、どんな変更があったのかも含めてご紹介したいと思います。

### ～医療リハビリテーション分野の改定内容～

- ◇今回の医療リハビリテーション分野の改定は①急性期リハビリテーションの充実と②リハビリテーション・栄養・口腔の連携強化がメインとして挙げられています。
- ◇早期にリハビリを開始することで廃用症候群を最小限に防ぐことができ、認知機能低下を防ぐことにも有効です。また、食事に関して管理栄養士と連携することで低栄養状態を防ぎ、サルコペニアやフレイルの予防を図ることが可能です。
- ◇これらの加算の意味を理解し実践することで、より充実したリハビリテーションの提供を行うことができます。そのため、理解度向上を目的にリハビリテーション科内でも勉強会を行っています。

### 急性期リハビリテーション加算

この加算は急性期の患者様へリハビリの提供が早期に行う事が目的です。ADL能力や認知機能の低下した患者様や特定の医療行為を必要とする患者様が対象です。急性期に離床を図ることで早期退院を目指すことができます。



### リハビリテーション・栄養・口腔連携加算

今回の改定で新しく追加された加算です。急性期の患者様が対象であり、急性期から離床や経口摂取が行えるようにリハビリや栄養・口腔管理に関わる多職種で介入し、ADLの維持・向上を目的としています。

早期に退院が行えるように病院の体制は整いつつありますが、病院での費用や保険料も徐々に上がってきています。入院が長引かないように普段から適度な運動習慣やバランスの摂れた食生活を心がけてみるのも良いかもしれませんね。

## ■ 医療法人 関越中央病院

入院だけでなく外来リハにも対応しております。  
主治医にご相談ください。

### ▶ 施設基準

心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ  
脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ  
廃用症候群リハビリテーション料Ⅰ  
運動器リハビリテーション料Ⅰ  
呼吸器リハビリテーション料Ⅰ  
がん患者リハビリテーション料  
摂食機能療法



心臓リハ部門 主任  
津久井亮

病院リハ部門 主任  
丸山あすみ 松下知史

## ■ 通所リハビリテーション関越中央

1~2時間の短時間通所リハ、6~7時間の長時間  
通所リハを行っております。  
相談員業務をリハ職が行うことにより、利用者様  
に合わせた最適なプランを提案させていただきます。

## ■ 訪問リハビリテーション関越中央

病院で急性期リハを学んだ職員が対応することで、  
心臓・呼吸に問題のある利用者様も安心してご利用  
頂けます。



介護リハ部門 主任  
狩野和子 田口裕一

空き状況	月	火	水	木	金
短時間型通所リハ 1クール 9:00~10:15	○	○	○	○	○
短時間型通所リハ 2クール 10:30~11:45	○	○	○	△	△
長時間型通所リハ 9:00~15:15	△	△	○	△	△
訪問リハビリ 13:00~17:00	△	△	△	△	△

○：受け入れ可能 △：要相談 ×：受入困難

〒370-3513 群馬県高崎市北原町71

TEL：027-373-5115 (代) FAX：027-372-2829

アドレス：reha@kan-etsu-hospital.com

## ひとことコラム 第58回

### 「他者との交流や文章などの自己表現が認知症予防になる?!」

■ 認知症の予防として「**他者との交流**」が**認知症予防に期待できる**ことを知っていますか？国立長寿医療研究センターの発表によると**65歳以上13984名**を対象に約**10年間**の追跡データを解析した結果、①配偶者がいる②同居家族と支援のやりとりがある③友人との交流がある④地域のグループ活動に参加している⑤何らかの就労をしているの5つのつながりがある人では、**認知症発症リスクが低下する**ことがわかりました。これら5つのつながりがある人は、ひとつもないかひとつだけの人と比べて**認知症発症リスクが46%低い**ことがわかりました。

■ 自分の考えや感じたことを人に伝えようとすると脳が活性化されます。手や口を使って自分の考えや感じ方を伝えることで脳が十分に活性化されて認知症の予防になります。

■ これを機に人との会話やグループへの参加など生活習慣や他者との関わり方を見直してみてもいいのではないでしょうか？

参考：国立研究開発法人国立長寿医療研究センター